

益田川ダムについて

2012.1
益田県土整備事務所

1. 益田川ダムはどうして必要か

益田川では、古くからたびたび洪水による災害を受けました。

○昭和18年9月(台風26号)

なくなった人136名、けがをした人532名、水が入ってきた家3,607棟

○昭和47年7月(梅雨)

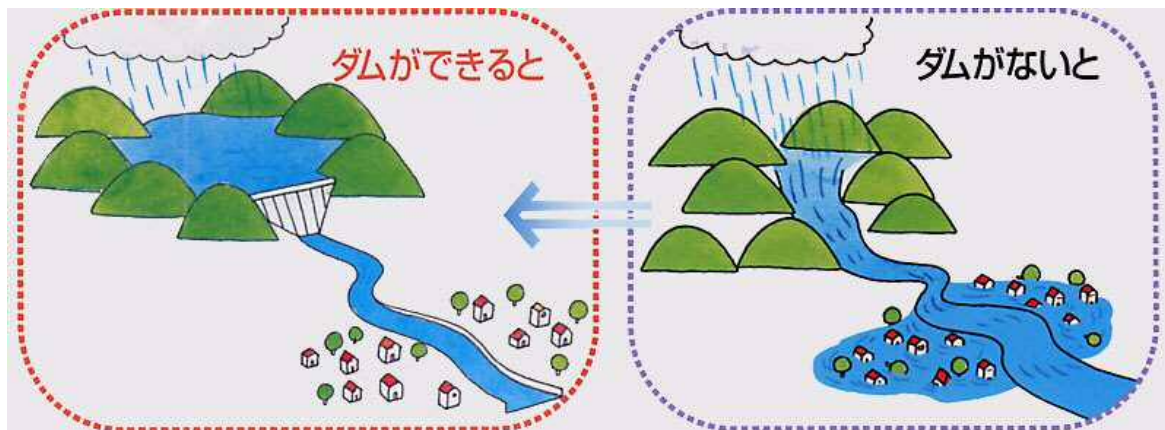
益田市／なくなった人1名、こわれた家74棟、水が床より高く入ってきた家402棟

○昭和58年7月(梅雨)

益田市／なくなった人39名、こわれた家1,748棟、水に流された家67棟

このため、昭和58年7月の雨が降っても洪水が起きないように、『益田川治水ダム建設事業』を計画しました。

ほかのやりかたとしては、川幅を広くすることが考えられますが、たくさんの家が引越しないといけないので、ダムを作るよりたくさんのお金が必要となります。

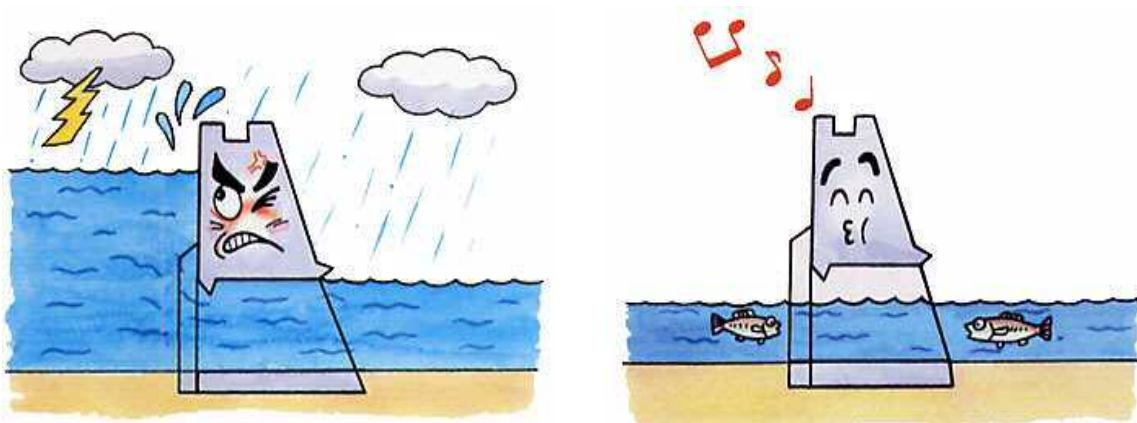


2. 益田川ダムの洪水調節

益田川ダムは、ダムの下側に穴(幅4.45m、高さ3.40m)が二つあいていて、大雨が降り水が増えるとこの二つの穴から安全な量だけ水が流れ、それ以上の水はダムに貯まって、下流の人や家を守ります。水門やゲートは無く、自然調節となっています。

3. 益田川ダムのめずらしいところ

大雨の時以外はダムに水をためない日本でも珍しいかたちになっています。この二つの穴は、魚の行き来もできます。



4. 益田川ダムのおおきさ

- ・ダムの高さ／48メートル
- ・ダムの長さ／169メートル
- ・ダムのコンクリート量 106,500立法メートル(小学校のプール350杯分)
- ・水が貯まったときの量 6,750,000立法メートル(蟠竜湖14杯分)

5. 益田川ダム本体をつくるのにかかった期間

- ・平成13年3月から18年3月までの5年間
- 平成17年10月試験湛水(ダムに水を試験的に貯めダムの強度などを調べること)

6. 益田川ダム本体以外の工事

- ・国道191号の道路工事(平成8年に完成)
- ・県道や町道や林道の道路工事(平成17年度末完成)
- ・ひだまりパークみと(ゴルフ広場、さくらドーム、せせらぎ広場、サッカー場：平成15年に完成)
- ・笹倉ダム再開発(水不足の時役に立つもうひとつのダム：平成19年3月に完成)

7. 全体でかかったお金

- ・約300億円(1万円札を重ねた厚さ300メートル、1枚ずつ横に置いた長さ480キロメートル)



益田川ダム完成写真 (試験湛水中)